

# 天地

ネットワーク テーブル 455号

発行：天地シニアネットワーク：2017・9・1

TENTĪ TODAY		1
会員の広場	<旅先での緊張><東京の老舗「羽二重団子」><絵手紙>	2
連載作品		4
随想	天のわざ、地のほまれ—地球を測れ、宇宙をはかれ 32.強力なエンジンを作れ — カルノー・サイクル	伊那 闊歩 4
随想	歴史文化論の試み(3) 会津八一をめぐる誤解	尾関 陽四 7
旅行記	そうだ京へ行こう・古刹の花物語(28) 洛中洛外・5 「城南宮」	大竹 漢洲 8
講演会	「奈良興福寺文化講座」「新三木会」	10
事務局		11

## TENTĪ TODAY

9月、夏も終わり、ホッとしますが寂しい気もします。「一人で孤独死をしてないかと心配で・・・」とわざわざ伊那闊歩さんが広島から電話をくれました。複雑です。

関根昌一さんから、銀座6丁目の画廊で開かれている成美会展のご案内を頂きましたので出かけました。大成建設OBの方の会で、絵画が多いようでしたが、関根さんは陶器4点、80才代半ば(?)にして、いまなお元気がよく分かりました。会場に集う皆さんも楽しく元気そうで、ここにも定年後の生活を十分エンジョイされている人たちがいると知りました。

帰途久しぶりに、数寄屋橋の旧マツダビル、泰明小学校の辺りを歩きましたが、往時の面影、風情はなく寂しくなりました。

「Mr. トルネード・藤田哲也・世界の空を救った男・こんな日本人がいた」佐々木健一著・文芸春秋社。航空機が安全に乗れるのは、藤田哲也のお蔭というのは、世界で有名な話だそうです。日本ではほとんど知られていないお話ですが、学会ではアウトサイダー、その影響があるようです。

一読、おすすめします。

北朝鮮の弾道ミサイル発射で、安倍首相の外交面での活発な動きが目立ちます。世界の主要国が、それぞれ国内問題で手が回らないせいか、安倍首相の動きが突出しているようです。そのためか安倍首相の抱えていた国内問題

がどこかへ埋没してしまったようです。安倍首相が国内問題で苦境を迎えると北朝鮮問題が起こる、今回もまた・・・安倍首相はついているとしか言いようがありません。

\*\*\*\*\*

## 会員の広場

\*\*\*\*\*

### <旅先での緊張>

忍び寄る老齢を口実に、社業・ご奉仕業をセーブさせてもらい、39日間も飛鳥Ⅱのアジア・パシフィック・クルーズに乗船、得がたい良い経験をいたしました。1月23日横浜出港、 Guam、パラオから南洋の島々を通り、2月1日赤道通過のお祭りは、妻の誕生日と重なりました。

アンボンから有名なコモド島に投錨し巨大なトカゲ（ドラゴン）を間近に見てきました。バリ島の横をすり抜けシンガポール、マレーシア、ベトナム、香港と寄って、3月2日に帰港しました。中でもマレーシアをパスしシンガポールからネパールへ空を飛びカトマンズへ二泊、晴天の中、世界一の巨峰エベレストを空中から眺めることができたのは圧巻でした。しかも地震の災害跡が依然として残る中でしたが、世界文化遺産に指定されたカトマンズの美しさをほぼ1日観光できたのは望外の幸せでした。

帰路、大陸沿岸に寄った南シナ海を北上する航海中、海南島から香港にいたる海域に監視船とおぼしき白色同型の小型船舶が20～30海里間隔で停泊しているのに（2月24日、日中、7～8隻を見た）軍事的緊張というものを感じました。

これと似て非なるものですが、7月に北海道経由サハリンを訪れた折、コルサコフから州都ユジノサハリンスクまで日帰りの列車の旅でしたが、その途中、線路沿いに十数台の中型戦車が「放置」されているのに気づき吃驚しました。

また車中でサービスされた紅茶グラスのホルダーに双頭の鷲がデザインされているので、ロシアの国章が革命以前の帝政時代に戻ったことを知りました。

（梶原徳二さんから送られた夏便りより）

\*\*\*\*\*

### 東京の老舗「羽二重団子」

JR日暮里駅前（東口？）バスターミナルのすぐ向かいにある中華店、いつも入店待ちの行列が出来ていますが、道路を挟んで並びにある<羽二重団子・日暮里駅前店>、空いているので月に3～4回、友人（男性）と寄りませす。団子屋さんですが、いつも「ぜんざい」を注文します。お店では歓迎されないお客のはずですが、ガラス越しに老人男性が美味しそうに食べている様子が見えますので、つられて入ってくるお客さんも結構いて、満席になることがよくあり、福の神（自称）と歓迎されていると自負しています。古くから有名人が多く通った「本店」は、取り壊され閉店しています。根岸の里を訪ね、羽二重団子を食いたいときには、駅前店がありますので、ぜひ寄っ

てみてください。

＜羽二重団子の謂れはいかに・・・＞について簡単にご紹介しておきます。

羽二重団子のご先祖は、言い伝えでは享保年間（1716年～36年）に加賀前田藩江戸屋敷に出入りしていた植木職人、文政二年（1819年）現在地に掛け茶屋開いたのが始まりで。藤棚があったことから「藤の木茶屋」あるいは「藤茶屋」と呼ばれたそうです。茶屋を開いたのは、店の前を流れる音無川ぞいの王子街道を往き来する旅人が多いばかりでなく、名刹善性寺の門前という地の利を得ていたからだと言われています。

今でも（取り壊し前ですが）本店の脇に＜旧王子街道＞の石柱がありますが、街道は芋坂の方に上り、善性寺は真向いにあります。善性寺は、日蓮宗身延派の関妙山善性寺として、長享元年（1487年）に開山し、徳川6代将軍家宣の生母長昌院の墓があり、家宣がたびたび墓参に訪れ、現在でも大きな立派なお寺です。

茶屋が開かれた頃は、付近は未だ寂しく善性寺のほかに十数軒の農家があるだけで、商売をするのは藤の木茶屋だけだったとのこと。旅人のために菜飯や煮豆のほかに酒も出していましたが、商いの中心は焼き団子と餡団子の二品だったそうです。

当初は、植木職人の内職のような商売だったので自慢の庭を見せながら団子を供したらしい。同様に言問団子の創業者も、植木職のかたわら隅田川ぞいの地の利を生かし、花見客や川遊び客などを相手に明治元年から団子茶屋を始めています。

しかし同じ団子でも違いがあって、言問団子は白餡、あずき餡、青梅をかたどった味噌餡の三種類で、串を使わない。一方、藤の木茶屋の団子は、焼団子と餡団子の二種類で、一串に4個ずつさす。

藤ノ木茶屋の団子は、きめが細かく羽二重のような舌触りであるところから、いつしか羽二重団子と呼ばれるようになりその呼び名が団子名だけでなくついには、屋号となったそうです。

羽二重団子は、歴史が長いのでいろんなところに登場しています。

慶応4年（1868年）上野の山に彰義隊が立てこもった時に、寛永寺の領地に住んでいた3代目・庄五郎（天保12年・1841年生まれ）は、使役に応じ、旧暦5月15日の払暁、現在の上野動物園あたりで、畳を担いで防御づくりにたずさわったそうです。そのうち、神田あたりで狼煙が上がり、現在の東京大学のほうから弾丸が飛んできたので、店に戻って団子の蒸籠を背負い、戸締りして家族を連れ逃げたとのこと。逃げ延びて戻ってくると、向かいの善性寺は焼け落ちているのに、羽二重団子の瓦葺の建物は無事だったそうです。

明治2年には近くの田端で大規模な地滑りがあり、削られた跡地から貝塚が発見され、物見高い江戸っ子が列をなし、ひっきりなしに羽二重団子の前を通り、明治10年に上野不忍池で第一回内国勸業博覧会が開かれたとき、見物客目当てに出店した羽二重団子は大繁盛だったそうです。

正岡子規は、羽二重団子が好物で短歌、俳句に出てくるそうですが、漱石

の「吾輩は猫である」にも登場します。

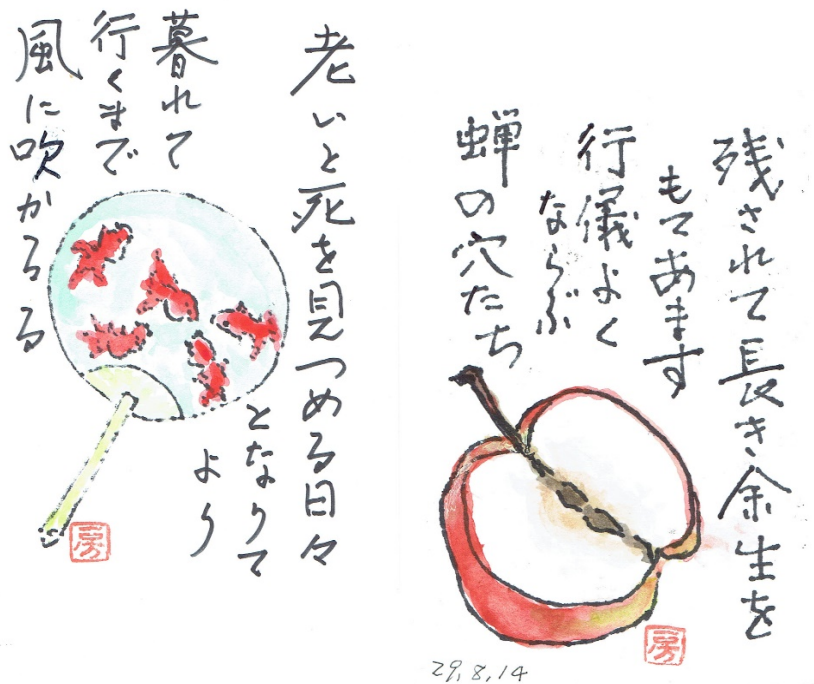
多々良三平という六井物産に勤める男が、苦沙弥先生から散歩に誘われこう言っています。

「行きませう。上野にしますか。芋坂へ行って団子を食いませうか。先生、あすこの団子を食ったことがありますか。奥さん、一返行って食って御覧。柔らかくて安いです。酒も飲ませます。」

(「東京老舗の履歴書」樋口修吉著・中公文庫を参考にしました)

(津田)

\*\*\*\*\*



(タナカフサエさん・95歳)

\*\*\*\*\*

## 連載作品

\*\*\*\*\*

天のわざ、地のほまれ

—地球を測れ、宇宙をはかれ—

伊那 闊歩

### 32. 強力なエンジンを作れ — カルノー・サイクル

18世紀中葉のヨーロッパ。オーストリアには、女帝マリア・テレジア(1717-1780)が、隣国プロイセンには啓蒙君主として知られるフリードリヒ2世(1712-1786)が君臨していたが、当時オーストリア領であったシュレージエンの帰属をめぐる、1756年紛争が勃発し、またたくまにフランスや英国、ロシア、米国植民地までもまきこんで世界戦争に発展した。戦争は7年間つづき、1763年プロイセンと英国同盟軍が勝利、プロイセンはシュレージエンを獲得し、英国はインドからアメリカ植民地にいたるまで版図を広げたので

ある。

英国の発展を支えたものは、大規模な綿織物製造をはじめとする機械工業であった。ここで、人が最も必要としたものが、牛馬や水車、風車や船の帆などより強力で効率の良い動力であった。英国人エンジニア、ジェームス・ワット(1736-1819)は、1781年ピストン運動を円運動に変換する方法を実用化し古臭い蒸気機関を改良し、同僚とはじめたボルトン=ワット商会から新しいスチーム・エンジンを売り出したのである。ワット商会の製品は綿織物工場や工事現場の排水施設などにも広く採り入れられた。1800年には、蒸気機関が高圧化され、1807年、米国人技術者ロバート・フルトン(1765-1815)は蒸気船を製作、世界初の実用外輪式汽船クラモント号を完成した。

1814年、英国人技師ジョージ・スティーブソン(1781-1848)は炭鉱で使用するための蒸気機関車ブリュッヘル号を製作、1823年、ロコモーション号を、1829年、ロケット号を完成して蒸気機関車競争にも優勝し、スティーブソンの蒸気機関車の有用性が世に示されたのであった。強度のある鉄製のレールも完成して鉄道網が拡大し、ヴィクトリア朝英国は、蒸気機関による動力によって、世界に冠たる技術大国の道を突き進むのである。

話変わるが、何の価値もない物質を金に変える錬金術と、燃料の補給なしに止まることなく仕事を続ける永久機関を製作することが、昔から人の夢であった。あのアイザック・ニュートンでさえ、自邸に密かに錬金工房を設け、悪臭立ち込める室内に閉じこもって錬金術に没頭していたという。

外部からエネルギーを供給することなく勝手に動きまわり、そこからいつまでもエネルギーをとりだせるようなエンジンが存在すれば、それを「第1種の永久機関」と呼ぶ。しかしながら、このような魔法のエンジンは、エネルギー保存則(熱力学の第1法則も)を破っているのだ。では、海水の熱のみを利用して永久に動くエンジンを作れないであろうか。もしこれが可能ならば、船舶は海水の熱エネルギーだけによって、海上を走りまわることができる。このようなエンジンを「第2種の永久機関」というが、これも不可能なのである。そこで当然のことながら、蒸気機関の仕事の効率はどこまで上げることができるのか、ということに当時の技術者の関心が集まっていた。

これからしばらくひとつ架空の話をしようと思う。ここにひとつの会社があり、社名をカルノー商会という。A時点での会社の状況は、経常利益  $P_A$ 、会社規模  $V_A$ 、社員数  $T_A$ となっており、それらの間には  $P_A V_A = nR T_A$  と

いう関係がある。会社の純資産を測る指標があつて、それは  $U_A = (3/2)nR T_A$  で与えられるものとする。この会社は B 時点にいたるまでにせっせと仕事にはげみ、上げた利益(儲け)  $Q_1$ をすべて事業拡大のために消費した。その間、経常利益は減ったが、純資産を減らすことなく十分に社会貢献もおこなった。社員の士気衰えず、意気軒高、会社規模は拡大し B 時点で  $P_B V_B = nR T_B$ 、 $U_B = (3/2)nR T_B$ 、社員数はかわらないので  $T_A = T_B$  となっている。

ところが B 時点で会社の儲けがゼロになってしまった。それでも当面、事業はつづけなければならない。内部留保分（純資産）を放出し、C 時点になったとき、利益はゼロのまま、社員数を  $T_B$  から  $T_C$  になるまでリストラしつつ、会社規模はすこしあがった。C 時点で  $P_C V_C = nR T_C$ 、 $U_C = (3/2)nR T_C$ 。このままでは会社はジリ貧になる。さらにリストラすることなく D 時点に至るまで、不良債権や無駄な工場を整理するなど規模を縮小しはじめた。そのため経常利益はあがった。整理し終わった時点 D で当然、欠損（赤字） $Q_2$  が確定計上される。

D 時点での会社の状況は、 $P_D V_D = nR T_D$ 、 $U_D = (3/2)nR T_D$ 、低レベルながら社員数を減らすことはなく、 $T_C = T_D$  であった。ここでカルノー商会経営者は、会社の状態を A 時点のそれに戻すことを画策した。よけいな工場を整理し、利益ゼロのまま、思い切って大幅に人員を増やし社員の士気をあげ、会社の規模をもとに戻したのである。

この会社の事業は、以上で 1 サイクル終了したわけであるが、問題はこのカルノー商会は果たして利益をあげたのであろうかということである。この事業の規模を理想気体の体積  $V$  に、経常利益を気体の圧力  $P$  に、社員数を絶対温度  $T$  に置き換えればそっくりそのまま、熱機関の作業工程 1 サイクルに相当することがわかる。このサイクルをカルノー・サイクルといい、図に描けば fig.1 のようになる。

カルノー・サイクルを右まわり： $A \rightarrow B \rightarrow C \rightarrow D \rightarrow A$  という順序で作動させることによって、この熱機関に仕事をさせることができるのであろうか。できるとすれば、その効率、つまり、与えた熱  $Q_1$  にたいしてどれだけ（プラスの）仕事をしたのか知りたい。

1824 年、フランスの物理学者 ニコラ・レオナルド・サディ・カルノー は多くの試行錯誤を経て、このカルノー・サイクルを考案したのである。カルノーの熱機関は、はじめ高温  $T_1$  ( $T_1 = T_A = T_B$ ) の熱源から熱量  $Q_1$  をもらい、仕事  $W$  をして後、低温  $T_2$  ( $T_2 = T_C = T_D$ ) の熱源に熱量  $Q_2$  を捨てて、もとに戻るといって作業サイクルを繰り返すのである。カルノーの熱機関にはきわだった特徴があり、まず、熱効率  $e$  は途中でエネルギーロスがない理想的な場合には

$$\text{熱 効 率 } e = \frac{\text{投入した熱量} - \text{排出した熱量}}{\text{投入した熱量}} = \frac{\text{気体がした仕事} - \text{気体がされた仕事}}{\text{投入した熱量}}$$

カルノー・サイクルの場合、等式  $(V_B/V_A) = (V_C/V_D)$  が成り立つので、気

体の種類に関係なく、たいへんシンプルな公式

$$e = \frac{Q_1 - Q_2}{Q_1} = \frac{T_1 - T_2}{T_1} = 1 - \frac{T_2}{T_1}$$

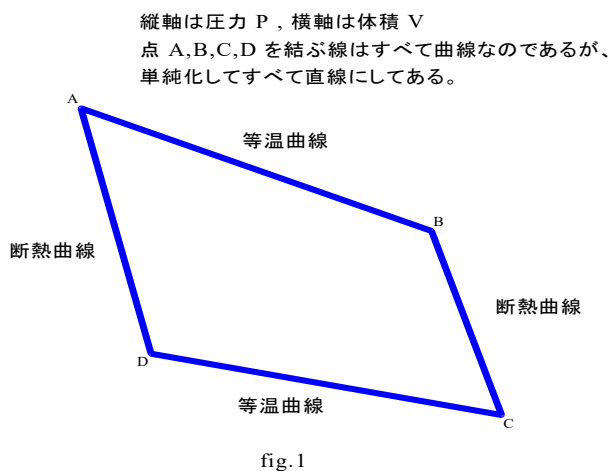
が得られる。この結果カルノー・サイクルの仕事の効率は、決して1を超えず効率100%になることはないが、2つの熱源の温度差が大きくなればそれだけ100%に限りなく近づくことがわかる。なおカルノー・サイクルは、作業中の温度のムラが起きないように出来るだけゆっくり進行させなければならない。効率の式からすぐにわかるように、熱量の比と温度の比とのあいだに等式：

$$\frac{Q_2}{Q_1} = \frac{T_2}{T_1}$$

が成り立っていることがわかる。そこで理想気体の温度を、はじめセ氏0度とし、気体を100℃にあたためて( $T_2 = T_1 + 100$ )、カルノー・サイクルによって熱量  $Q_1$ ,  $Q_2$  を測れば

$$\frac{Q_2}{Q_1} = \frac{T_1 + 100}{T_1}$$

であるから、 $T_1 = 273.15$  (0℃ にたいする絶対温度)が得られるのである。こうして、絶対0度の値  $-273.15^\circ\text{C}$  を決定することができる。これ以上温度を下げることは決してできないのだ。絶対温度は熱力学に基づいて決定することができる。これをはじめて指摘したのが19世紀熱力学研究の泰斗ロード・ケルビン(1824-1907,本名はウィリアム・トムソン)であった。



\*\*\*\*\*

大正から昭和にかけて、古今集以来の大和ぶりの和歌で活躍したのが会津八一である。中央公論社から全集が出ている。父が、八一の歌を額装して保存していた。そこにあった歌は、次のようなものである。

「たひひとのめにいたきまでみとりなるついちのひまのなはたけのいろ」

八一の歌はすべてかな表記である。また、ここでは濁点が省略されている。これを私は次のように解釈した。

「旅人の眼に痛きまで緑なる築地の隙の縄竹の色」

築地塀の崩れた隙間から覗く縄竹のいかにも鮮やかな緑に眼を洗われることよ。・・・すこぶる平明な歌だ。

ところが、私の解釈には誤りがあった。『自註鹿鳴集』（新潮文庫）を参照すると、次のように載っている。

「たびびと の め に いたき まで みどり なる ついちの ひま  
の なばたけ の いろ」

ここでは、濁音が復活し、なおかつ、分かち書きが登場する。分かち書きは議論を複雑にするので措いておこう。私が「縄竹」と解釈したことばが「なばたけ」、すなわち、「菜畑」となっているのではないか。考えるまでもなく、「縄竹」であれば、元のかなは「なわたけ」でなければならぬ。単純な思い違いだった。

しかし、なお違和感が残る。緑色の菜畑とは？

「いちめんのなのはな、いちめんのなのはな」と詠った詩人（山村暮鳥「風景」）がいたように、菜の花から連想するのは、圧倒的な黄色のマッスである。それが、緑の菜畑とは？ これが、この歌に八一が仕掛けたわなである。おそらく、花の終わった初夏の菜の葉の印象を訴えたかったのであろう。見事、一本取られた気持ちである。

東京の中野駅と東中野駅との間の線路沿いの土手に、今3月、菜の花が咲き乱れている。よく見ると、黄色い菜の花と同じほどの迫力で黄緑色の菜の葉が存在を誇示しているのがわかる。菜の花は黄色、という先入観を笑うように。これから更に菜の葉の緑が勢力を増すのを予感させる光景だ。

\*\*\*\*\*

＜そうだ京へ行こう・古刹の花物語＞（28）

大竹 漢州

洛中洛外・5 「城南宮」



城南宮は今日の京都市伏見区にあります。観梅の季節を迎えると枝垂れ梅と椿の美しさを求めて、古から多くの人で賑わってきた神社です。都が、「四神相応の地」とされる平安京に長岡京から遷った時に、国の安泰と都の守護を願って創建された歴史のある神社です。

主神は国の護り神である「国常立尊」、武勇に秀でた神「八千矛神(大国主命)」、安産と子育て神「神功皇后」が祀られています。

余談です。「四神相応の地」とは四神に相応じた最も尊い地相です。左方である東に流水のあるのを青竜、右方である西に大道のあるのを白虎、正面である汗地(くぼち)のあるのを朱雀、後方である北方に丘陵のあるのを玄武とする地を指します。官位・福祿・無病・長寿を併有する地相で、平安京はこの地相を有するとされた。

今日では便利なシステムがあります。iPad・Googleで城南宮の位置関係係を調べてみました。城南宮は御所から朱雀の位置にあたります。北方に方向を辿ると東寺から御所内にあった神泉苑・二条城に至っています。

城南宮は南方朱雀の護りをする神社であることを知りました。

平安後期を迎えると、白河天皇が鳥羽離宮(城南離宮)を造営してから、城南宮を中心として皇族と貴族の離宮が多く築かれ始めました。又、後代になると城南宮は、京都御所の裏鬼門を護る神に成ったことから、貴族達の宿舎として離宮の御殿が選ばれるようにもなりました。実際に熊野詣でに出かける際には、離宮の御殿に七日ほど滞在して身を清め、旅の無事を祈って出かけたそうです。「方除(ほうよけ)の大社」と仰がれる城南宮の方除信仰を見ることができます。

余談です。「方違」とは陰陽道の俗信の一つです。他出する際に、天一神(なかがみ)がいるという方角に当たる場合はこれを避けて、前夜、吉方(えほう)に一泊して方角を変えて行くことです。「方徐」とは、日々の暮らしの中で、知らずに悪い方向に行くことや、家の間取りが良くないことがあります。方位の障りや、家相の心配の無いように祈願することを方除と言います。城南宮の御神紋は、日・月・星を表す「三光の紋」です。この紋は北野天満宮の本殿の正面・背面・天井に彫刻されていました。偶然なことでしょうか?

国道一号線が混雑のため、タクシーを城南宮道の東鳥居で降りて、社殿神苑に向かいました。観梅の季節を迎えて大変な混雑です。露店の匂いに混じって梅の芳しい香りが鼻を捉えます。参道を中程まで進み右に折れて、紅い枝垂れ梅が溢れるように掛かる城南鳥居を見上げながら潜り、拝殿から本殿に進み参拝しました。現金なもので神苑(楽水苑)の入口には観梅客の長い列ができていましたが、本殿に参拝する姿は疎らでした。

参道右手に入口があります。神苑に入りました。神苑は参道を隔てて二つの地域に分かれています。案内書に梅の味わい方が書かれてありました。“咲き始めから六分咲き”を「探梅」、”見頃から満開”を「観梅」、”散り始め”を「惜梅」と「梅”の通は称するそうです。

目の前に広がる紅白の満開のしだれ梅、甘い香りで全身を包み込むようです。

平安後期に城南宮の周囲に築かれた離宮の築山が「春の山」です。入口辺りから紅白のしだれ梅が重なり合い、春先の淡い日に照らされて、透き通るような透明感の美しさです。感動。150本の紅白梅の美しさに心を奪われた人々が、立ち止まりハツと息を飲み込んでいるようです。梅樹の下に一面に生えた緑の苔の上には、落ちたばかりの椿の花と散り始めた紅梅の花弁が美しい意匠を演出しています。本殿の裏を歩いて順路は「平安の庭」に導かれます。「平安の庭」を中心にして『源氏物語』に登場する植物が100種以上も植栽されています。京都の花の名所にもなっています。

道を挟んで向う側の庭に続いています。平安後期に院政の拠点として築かれた城南離宮の風景を枯山水として表現された「城南離宮の庭」。玉砂利が大池を点在する石組が御殿を表しています。順に桃山時代の豪壮な気風に溢れた広々とした「桃山の庭」。室町時代の庭園の黄金期の様式を再現して、池を中心として回遊式を取り入れた「室町の庭」、池水を取り巻くように枝垂れ梅と椿が迎えます。白紅梅の競演と椿の美しい風景画が広がっています。

城南宮の参道から明治維新の歴史が始まっています。初耳学!、鳥羽伏見の戦いは、大阪城から攻め上った旧幕府軍に対して、参道に陣取った薩摩軍が大砲を放ったことから始まりました。西の鳥羽離宮公園には、鳥羽伏見の戦い跡の石碑が残されています。城南宮の東には白河天皇陵・鳥羽天皇陵・近衛天皇陵が並び、歴史的な遺跡の多い地域です。昼食は、都タクシーの運転手に紹介されて「みね八」(075-661-3868)で食べました、美味しい京風カレーうどんでした。お勧めします。

\*\*\*\*\*

## 文化講座・講演会

\*\*\*\*\*

### 奈良興福寺文化講座 2017年9月21日(木曜日)

午後5時半～6時半：第一講

講演：「運慶と鎌倉彫刻の新様式一形への信頼と力一」

興福寺国宝館長 執事 金子啓明

午後6時40分～7時・・・心を静める

午後7時～8時：第二講

連続講話：「奈良・祈り・心」

興福寺 貫首 多川俊映

会場：(学)文化学園 文化服装学院内

受講料：500円 先着200名

(JR新宿駅南口、小田急線、京王線各新宿駅から8分、都営新宿線新宿駅3分)

\*\*\*\*\*

### 第86回 新三木会講演会のご案内

1、日時・会場 2017年9月21日(木)13:00-15:00 如水会館

2、演題・『望ましい社会制度・経済政策を求めて』 鈴木興太郎氏

一橋大学・早稲田大学名誉教授

3. 申込・会費 E/Mail: [shinsanmokukai@gmail.com](mailto:shinsanmokukai@gmail.com)

TEL :047-464-4063

フルネーム：一般・天地シニアネットワーク

会費：2000円 婦人 1000円 学生無料

茶話会：15:15-14:20 千円（自由参加）

#### 4. ホームページ

<http://jfn.josuikai.net/circle/shinsanmokukai/>

#### 5. 予告

- 10月19日（木）第87回 小宮山 宏氏  
三菱総研理事長、元東京大学総長  
『プラチナ社会を目指して』
- 11月16日（木）第88回 高橋和夫氏 放送大学教授  
『中東と米国トランプ政権』
- 12月21日（木）第89回 牧 久氏 元日本経済新聞社副社長  
『さらば国鉄 国鉄民営化の舞台裏』

\*\*\*\*\*

### 事務局

\*\*\*\*\*

#### <事務所までの道のり>

場所：〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202号  
(電話・FAX 番号：03-3837-0290)

御徒町界隈では、JR山手線・京浜東北線と昭和通りが南北に並行して走っています。

- ① JR御徒町駅北口を出てすぐ右に折れて、2ブロック直進すると、昭和通りに出ます。右に多慶屋の紫色のビルを見てさらに8ブロックほど直進すると、
- ② 都営大江戸線の新御徒町駅のA2入口が右側にあります。やや進むと（都営大江戸線の新御徒町駅A2入口を出た場合は右に回ると）、佐竹商店街のアーケードがあります。右折してアーケードを7ブロックほど直進すると、佐竹商店街の出口に到達します。そこを右に曲がってしばらく行くと、左側に薄青いビルがあります。（1階は焼肉屋「もとやま」。）そのビルの2階です。

<投稿歓迎><図書のおすすめ依頼>

<プリント版・郵送>

メール版(無料)を月に一回編集してプリント版を発行郵送しています。お申込みくだされば送ります。その際には、実費として1月350円(4200円/年)をいただいておりますのでご了承ください。

<振込先> 三井住友銀行「神田支店」 (普通) 7871532  
(口座名) テンチシニアネットワーク

<配信・郵送、不要の場合はご一報ください、中止いたします。>

---

天地シニアネットワーク・テーブル・455号

発行：2017年9月1日

天地シニアネットワーク事務局 (津田 孚人)

〒110-0016 台東区台東2-21-9 双葉ビル2F202

号室

TEL・FAX 03-3837-0290

E-Mail [tenti@mvc.biglobe.ne.jp](mailto:tenti@mvc.biglobe.ne.jp)